

## 人身事故対策の検討結果

### ≪資料の要点≫

#### 1. これまでの人身事故対策

- ・人身事故対策として、これまでに多くの取組を行ってきたが、外国人観光客の急増に伴って人身事故も急増している。
- ・人身事故対策として、事故予防対策（看板、チラシ、動画、パトロールによる注意喚起）、事故発生時対応（シカ相談室の出動）が講じられてきた。

#### 2. 現場の取組と現状認識

- ・しかし、急増する外国人観光客を中心に人身事故が増加し、パトロールを含めた対応が追いつかず、現場も疲弊している。

#### 3. 課題の整理

- ・事故予防対策の強化が最優先と考えられ、注意喚起・普及啓発の強化が必要と考えられる。
- ・注意喚起・普及啓発の強化の観点は、下表のとおり。

表 注意喚起・普及啓発の強化に向けた観点（p.6 に具体的対応とともに整理）

観点
(1) 誰を対象に
(2) どのような情報を
(3) いつ
(4) どこで
(5) どのように

#### 4. 人身事故対策の検討結果

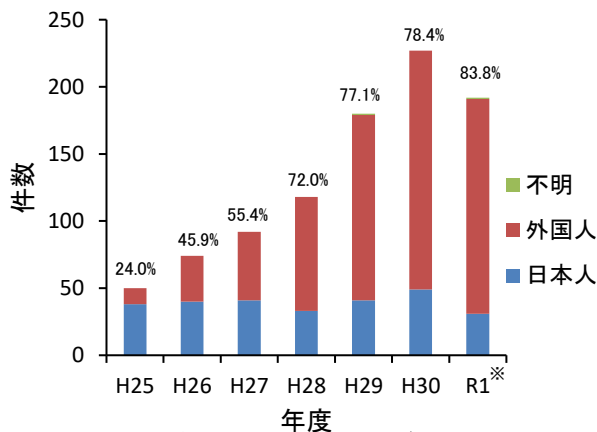
- ・注意喚起・普及啓発の強化を行うにあたり、シカとの人身事故リスクに対する観光客の認識、観光情報や注意喚起情報等の取得方法等について把握することを目的に、アンケート調査を実施している（令和2年2月3日配布、3月3日途中経過回収、3月19日現在継続中）。
- ・注意喚起の基本方針を検討するため、令和2年2月に渡邊委員、奈良の鹿愛護会、鹿サポーターズクラブ、奈良公園のシカ相談室、奈良市、奈良県で意見交換を実施し、基本方針（案）を作成した。

# 1. これまでの人身事故対策

## (1) 人身事故発生件数の推移

「奈良のシカ」と観光客とのふれあいの際に、シカに頭突きされる、噛まれる、蹴られるなどして怪我をするといった「奈良のシカ」に関連した**人身事故件数は、近年増加傾向にある**。日本人の人身事故件数は横ばいであるのに対し、**外国人の人身事故件数が大きく増加している**。平成30(2018)年度は過去最多(227件)となり、令和元(2019)年度は2月29日時点で192件と2番目に多かった(図1)。これは、近年、奈良市への外国人観光客が増加していること(図2)、観光客が事故につながるふれあい方をしていることが要因と考えられる。

また、人身事故による怪我の度合いについては、その多くは軽症で済んでいるが、中には骨折等により入院に至るケースもある。特に、平成30(2018)年度は入院した件数が7件となり、平成22(2010)～29(2017)年度の合計(5件)を上回るなど、深刻な状況にある。**乳幼児～小学生や、高齢者はシカとの接触による怪我の度合いが重症となるリスクが高いため、特に注意が必要である**(図3、写真1)。



※R1年度はR2年2月29日までのデータ  
 グラフ上部の数値は全事故件数のうち外国人の割合  
 図1 奈良公園のシカ相談室に相談があった人身事故件数の推移(奈良公園のシカ相談室 資料)

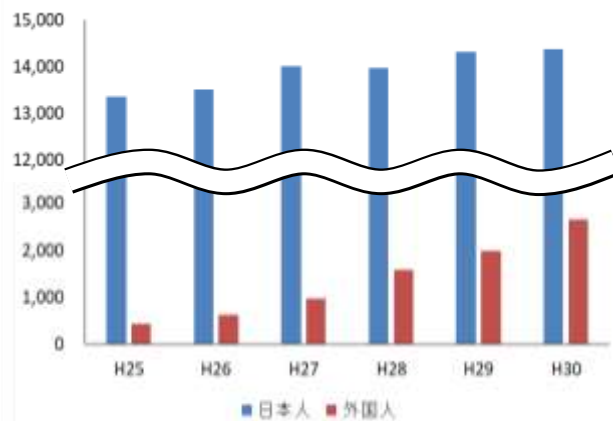


図2 奈良市の観光客数(奈良市,2019)

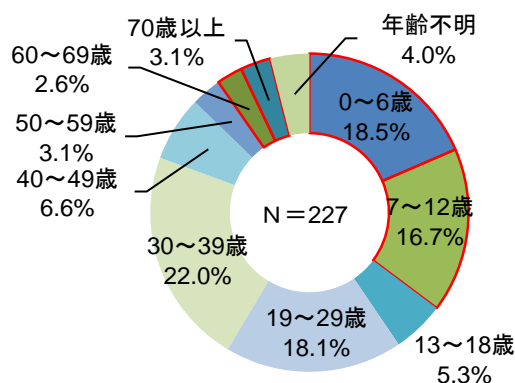


図3 平成30年度の年齢別人身事故割合(奈良公園のシカ相談室 資料)



写真1 鹿せんべいを与えようとした際にシカに押され、転倒した子ども

## (2) 人身事故対策の取組

天然記念物指定以後、昭和 54 年及び昭和 56（1981）年に農業被害をめぐって農家が提起した裁判（鹿害訴訟）の和解条項として、文化庁から昭和 60（1985）年に「奈良のシカ」の生息区域を A、B、C、D に地区区分し、保護管理を行う指導基準が示され、これに基づき保護管理を行ってきた（表 1）。

人身事故対策として、古くはシカの角伐り、注意看板の設置、事故防止のための放送などが講じられてきたが、観光への悪影響を理由に、麻酔銃使用の許可が出ない、「危険」等の表記を出すことができないなど、制約が多かった。

平成 19（2001）年の注意看板設置では、「ちかづかない」「きけん」など、危険性を伝える表記が認められた。その後、平成 21（2009）年には「奈良の鹿保護育成事業実行委員会」、奈良の鹿愛護会の活動を支える「鹿サポーターズクラブ」を、平成 22（2010）年には人とシカとのトラブルの窓口となる「奈良公園のシカ相談室」を、それぞれ県の主導により設置した。

それ以後の取組として、鹿サポーターズクラブや奈良公園のシカ相談室が**奈良公園内のパトロール時に「奈良のシカ」とのふれあい方や注意点について伝えている**。また、公園内に**啓発看板**を設置するとともに、観光案内所等における**多言語のパンフレットの配布**や近鉄奈良駅の**デジタルサイネージにおける表示**などの対策を実施している（図 4）。



図 4 「奈良のシカ」とふれあう際の注意点を示した注意喚起看板

※ 左、中：奈良公園内に設置している看板 右：鹿せんべい販売店が掲示している看板

表 1 国の天然記念物指定以降の奈良県による「奈良のシカ」保護管理に関する経緯

年	月	内容
1934		愛護会（財団法人 春日神社神鹿保護会）設立
1947		財団法人 奈良の鹿愛護会設立（改称）
1953		「鹿の角伐り」行事の開催開始
1957	9	国の天然記念物に指定
?		愛護会、来園者に向けて注意看板の設置
?		愛護会、公園内3箇所事故防止のための放送、軽トラックでの移動放送の開始
1967	1	愛護会、賠償責任保険契約を保険会社と締結
1969	11	保険会社、賠償責任保険契約の解約を愛護会に通告
1979	4	鹿害訴訟（一次訴訟）
1981	9	鹿害訴訟（二次訴訟）
1985	2	農家と国との和解成立
1985	7	農家と奈良市、春日大社、愛護会との和解成立
1988		「なら・シルクロード博」中の事故防止のため、616頭のシカを保護収容
2001		奈良県、奈良市、観光業者協力のもと、注意看板の設置
2008	12	「鹿のあり方検討会」設置
2009	4	「奈良の鹿保護育成事業実行委員会」設置
	8	「鹿サポーターズクラブ」開設
2010	3	公園内40箇所に注意喚起看板を設置
	4	「奈良公園のシカ相談室」開設
2011	4	庁内に「奈良公園室」発足
2012	2	「奈良公園基本戦略」策定
	11	「奈良の鹿駆除」に関する新聞記事
2013	2	奈良県・奈良市・春日大社による「天然記念物『奈良のシカ』に関する協定書」締結
	12	「奈良のシカ保護管理計画検討委員会」設置
2016	3	保護管理基準・地区区分の見直し
2018	4	鹿せんべい販売箇所に注意喚起看板を設置
2019	3	『天然記念物「奈良のシカ」保護計画 暫定計画』策定
	10	鹿せんべい値上げ（150円→200円）
	10	発情期オスジカの注意喚起看板を設置

出典：奈良県資料、渡邊（2014）、奈良の鹿愛護会 HP に追記

## 直近の取組

令和元年9月に開催された、第12回全体構想検討WGにおける意見を受け、令和元年10月より、発情期のオスジカの危険性を注意喚起するため、既設の看板に付加する形で新たに張り紙を設置した(図5)。

一目で危険性が分かるように、黄色の背景色に、大きく、少ない文字数で観光客にアピールした。言語は、日本語、英語、中国語とした。

オスの発情期の期間(10月～2月末)に限定して設置した。

また、メスの出産・子育て期間(5月～8月)においても、メスジカの危険性の注意喚起看板を設置予定である。



図5 令和元年10月に設置した発情期の注意喚起の張り紙

## 2. 現場の取組と現状認識

人身事故対策として、**事故発生防止対策**(看板、チラシ、動画、パトロールによる注意喚起)及び**事故発生時対策**(シカ相談室の出勤)が講じられてきた。

これらの取組についての課題を把握するため、鹿サポーターズクラブから、令和元年10月に開催した「人身事故を減らすための意見交換会議事録」(朝廣委員提供)の提供を受けた。また、奈良公園のシカ相談室へヒアリングを行った。

次ページにそれぞれの認識と対策の提案の概要を示したが、これらの結果から、**急増する外国人観光客に対し、対応が追いついておらず、人身事故に携わる現場が疲弊している**ことが伺える。

**鹿サポーターズクラブ**の現状認識では、

- ・外国人観光客が非常に多く来訪し、パトロールでいくら注意しても追いつかない。
- ・毎日一触発的な状況で、事故がいつ起きてもおかしくない状態。
- ・外国人観光客は公園内の注意喚起看板を見ない。
- ・鹿せんべいを細かく砕いて与えるなど、事故に繋がりやすいふれあい方をしている。
- ・観光ガイドの事故に対する認識も低い。

これらに対し、下記の対策を提案している。

- ・奈良公園に入る前に注意喚起の徹底をする。
- ・観光バス等でDVDなどの映像や、ガイドによる説明を通じて注意喚起行う。
- ・近鉄、JR、バスターミナルなどでも注意喚起をする。
- ・公園内で、外国人観光客でもひと目で分かるイラスト看板で注意喚起を行う。
- ・パトロール実施者がひと目で分かる腕章等をつける。
- ・ゴミの不法投棄や鹿せんべい以外の給餌に対する罰則付きの条例化を行う。

**奈良公園のシカ相談室**の現状認識では、

- ・パトロールを行っても、観光客のごく一部にしか声をかけられず、今の規模では限界がある。
- ・声掛けに対する観光客の反応も様々で、全く聞かない人もいる。
- ・骨折等の重傷事故を減らしたいが、公園内で分散して起こるため、予見がしづらい。
- ・噛まれる等の軽微な事故は、鹿せんべいの与え方（すぐに与える）、ふれあい方（角のあるシカには近づかない等）の徹底でかなり減らすことができる。
- ・鹿せんべい行商前に置いてある看板は字が多くて見づらく、また鹿せんべい購入時にはほとんど読まれることはない。

これらに対し、下記の対策提案をしている。

- ・多数に注意喚起ができる普及啓発が有効である。
- ・視覚的（動画、写真、イメージ）に情報を伝えることが必要である。
- ・公園到着前に注意喚起する必要がある。
- ・「シカは怖い」ということをもっとアピールする必要がある。

いずれの意見からも、以下の点が問題点として指摘されている。

- ・公園に入る前に注意を喚起させる必要がある。
- ・視覚的にわかりやすく危険性等を伝える必要がある（既存の看板等は文字が多い）。
- ・パトロールでは観光客の一部にしか注意ができず、労力に見合わない。

### 3. 課題の整理

事故対策は、事故発生防止対策と事故発生時対応がある。事故発生時対策は、通訳や病院搬送時の課題もあるが、これまでに大きな混乱もなく、ある程度体制が確保できていると考えられる。

したがって、**事故発生防止対策の強化が最優先となる。多数への注意喚起、公園に入る前の対策、視覚的に分かりやすい注意喚起が必要**である。また、**シカとの接し方や鹿せんべいの与え方など普及啓発の強化も必要**と考えられる。

注意喚起・普及啓発はこれまでも多くの取組を実施してきたが、近年急増する外国人に対応しきれていない。この状況に対応するためには、**彼らの特性に応じ、事故防止に必要な情報を、適切なタイミング、場所で、効果的に伝える必要がある**。このため、普及啓発の強化に向けた観点と対応を表 2 に整理した。

表 2 普及啓発の強化に向けた観点と対応の整理

観点	対応
(1) 誰を対象に	<b>【直接】</b> ・奈良公園を訪れる外国人観光客の構成の把握 ・シカによる人身事故リスクの認識が低い人の把握 <b>【間接】</b> ・観光ガイド、宿泊施設の啓発
(2) どのような情報を	・ふれあう際の注意点、リスク情報の整理 ・シカの生態、特性の整理
(3) いつ	・平時の実施事項の検討 ・イベント時の実施事項の検討 ・観光客増加時期の実施事項の検討
(4) どこで	・入口対策：駅、電車、バス、バスターミナル、宿 ・公園内対策：動線上、スポット
(5) どのように	・見てもらいやすさ、わかりやすさ： 直感的な理解、キャッチコピー、イラスト、写真、動画 ・観光客が接する機会が多い媒体の選択： SNS、口コミサイト、リーフレット、チラシ、 デジタルサイネージ、直接注意、TV、新聞 ・啓発情報に接する機会の増加： 投稿・掲示頻度増加、パトロール人員強化 ・来訪者が理解できる言語（多言語化）

## 4. 人身事故対策の実施に向けて

### (1) 不足情報の把握

表 2 の観点の内、(1)、(4)、(5)の内容を具体的に検討するため、奈良公園内で観光客（特に外国人観光客）を対象に、以下の視点に基づきアンケート調査を実施している（最終頁「参考」参照）。

- ・奈良公園来訪者の特性（国籍、年齢等）
- ・奈良公園の観光目的（シカの重要度）、観光情報取得方法
- ・奈良のシカの生態に関する認識
- ・人身事故リスクに関する認識

アンケート調査は、日本語、英語、中国語（簡体字）の3ヶ国語のアンケート用紙を作成し、実施した。令和2年2月6日から、猿沢インの協力を受け、猿沢インに訪問した外国人にアンケート調査を実施している他、鹿サポーターズクラブの協力を受け、調査を実施している（3月3日に途中経過回収を実施。3月19日現在継続中）。

参考：平成30年度奈良市観光客入込客数データ

平成30年度奈良市観光客入込客数データでは、奈良市全体の観光客についての情報が把握されている。今回実施する調査は、奈良公園及び奈良のシカにフォーカスした事項を調査する。



出典：奈良市（2019）



## (2) 関係者による意見交換会の実施

人身事故対策、特に注意喚起の基本方針の原案を検討するため、関係者および保護計画 WG 委員による意見交換会を開催した。

開催日：令和2年2月6日（木）

開催場所：奈良公園事務所2階会議室

出席者：渡邊委員、奈良の鹿愛護会（3名）、鹿サポーターズクラブ（1名）、奈良公園のシカ相談室（1名）、奈良市観光戦略課（1名）、奈良公園室（2名）、KANSO テクノス（2名）

### 意見交換会の結果概要

#### 1) 公園に入る前の注意喚起

- ・ SNS を活用し、各主体が積極的に発信を行う。
- ・ デジタルサイネージに注意喚起情報を掲出する。  
現在展開可能な場所：近鉄奈良駅、大和西大寺駅  
今後展開を検討する場所（公園内を含む）：JR 奈良駅（奈良市管理のデジタルサイネージ）
- ・ チラシ、ポスター等の各所への掲出、設置  
施設：観光施設、宿泊施設、空港、サービスエリア  
バス：ぐるっとバス、バス協会  
その他：既存観光パンフレットへの注意喚起情報の記載

#### 2) 公園に来てからの注意喚起

- ・ 鹿サポーターズクラブ、奈良公園のシカ相談室、奈良の鹿愛護会によるパトロール
  - ・ 観光客等へ注意するときに、注意者の立場、公園内のルールを示す手帳・腕章等の導入及びその実効性を持たせるための仕組みづくり（研修、委嘱状等）を検討する。
  - ・ パトロール時にチラシを携帯し、人身事故につながる恐れのある行為をしている人へ提示・配布する。
- ・ 事故が多発する時期における注意喚起看板の設置
  - ・ 今年度設置した注意喚起看板について、効果があると考えられたため、発情期だけでなく、出産・子育て期用の看板を作成する。
- ・ 公園内における注意喚起放送の強化
  - ・ 公園内における注意喚起放送の実施を検討する。
  - ・ 東大寺、興福寺、春日大社等の協力を得られるよう、調整を行う。
- ・ 鹿せんべい販売場所における注意喚起の強化
  - ・ 鹿せんべい販売店に設置している看板を東大寺参道等の店舗にも設置する。
  - ・ 鹿せんべいを販売する前に看板を見てもらえるような工夫をする。

#### 3) 注意喚起以外の取組

- ・ 鹿せんべいの販売場所変更等、行商組合との連携ができるよう、調整を行う。

### (3) 観光客に伝えるべき内容

人身事故防止にあたっては、奈良のシカの生態、リスク情報、人身事故を防ぐためのシカとのふれあい方を伝える必要がある。観光客に伝えるべき内容を以下に整理した。

#### 1) 奈良のシカの生態、リスク情報

- ・野生、天然記念物である。いつどんな行動を起こすかわからない。
- ・人を攻撃するときがある。
- ・突進される、噛みつかれる、蹴られるなどの事故が相次いでいる。
- ・骨折等の重大事故も発生している。
- ・メスは出産期から子育て期（5月中旬～8月）に我が子を守るため、オスは発情期（9月～11月）が最も攻撃的になる。
- ・奈良のシカに噛まれた、叩かれたといった怪我で狂犬病やその他の感染症にかかった事例はない。

#### 2) 人身事故を防ぐためのシカとのふれあい方

##### 【基本的事項】

※基本的に、触ることはできるだけ少なくし、離れて見守ること。

- ・子どもがふれあう時は、大人が常にそばにいるようにすること。

理由：シカは自分より体の小さい人間の子どもに対し、攻撃的になる傾向がある。

- ・鹿せんべいはすぐに与えること。

理由：じらすと攻撃される恐れがある。

- ・鹿せんべいを与えるときは、周りのシカにも注意すること。

- ・ふれあう時は、節度を守ってふれあうこと。

不適切な行為の例：写真撮影のために顔をシカに近づける、口移しで鹿せんべいを与える、またがる、叩く、追いかける など

理由：これらは、シカが驚いてぶつかったり攻撃されたりすることを誘発する恐れがある。人身事故だけでなく、人獣共通感染症にもつながる恐れがある。

##### 【メスの出産期から子育て期：5月中旬～8月】

- ・仔ジカ、母ジカには決して近づかないようにすること。

理由：見ているだけでも攻撃されるときがある。

##### 【オスの発情期：9月中旬～12月】

- ・角の生えそろったオスジカ、発情期のオスジカには決して近づかないようにすること。

理由：近づくと攻撃されることや、オス同士のケンカに巻き込まれるときがある。

## (5) 情報を伝える手法

### 1) 時期

平成 30 年の奈良市への入込客数と人身事故件数の関係を図 6 に、入込客数上位の国、地域からの月別入込客数を図 7 に、雌雄別の人身事故件数を図 8 に、事故の種類別の人身事故件数を図 9 に示す。

図 6 では、6～10 月が、月別人身事故件数の平均値より上に位置していた。これらは、シカが攻撃的になる時期と一致することから、**6～10 月に注意喚起を強化する必要がある**。また、5 月及び 11 月は、回帰直線より下に位置しているが、入込客数が他の月と比べて多いことから、**5 月及び 11 月にも注意喚起を強化する必要がある**。なお、入込客数が上位の国、地域では、入込客数の傾向が異なっている (図 7)。入込客数が最も多い中国は、常に他国よりも数が多く、**他の国よりも重点的に注意喚起・普及啓発が必要**と考えられる。

図 8 では雌雄不明の事故が多いものの、6 月から 8 月にはメスによる事故が増加し、6 月及び 8～10 月にオスによる事故が増加する傾向がある。

図 9 では、人身事故のほとんどが「噛まれた」事故であるが、メスの出産・子育て時期の 6 月には「叩かれた、蹴られた」事故が増加する。また、オスの角が成長し、角切が開始するまでの 8～9 月には「角」による事故が増加する。そして、オスの発情期となる 10 月には「体当たり、頭突き」による事故が増加する。このことから、**時期によって重点的に注意喚起を行う事故の種類を変える必要がある**と考えられる。

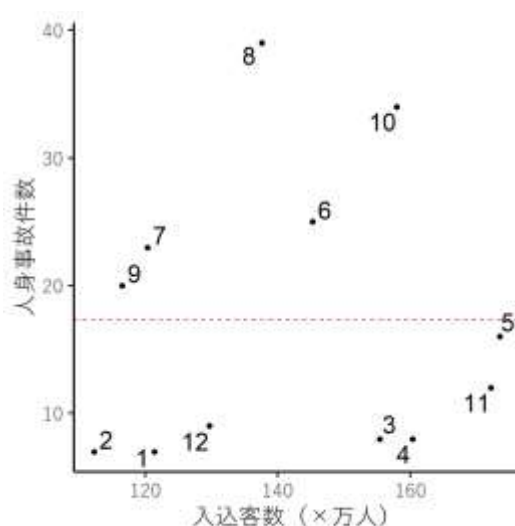


図 6 平成 30 年の奈良市における月別入込客数と人身事故件数の関係

※赤破線は月別人身事故件数の平均値

(奈良市(2019)、奈良公園のシカ相談室資料)

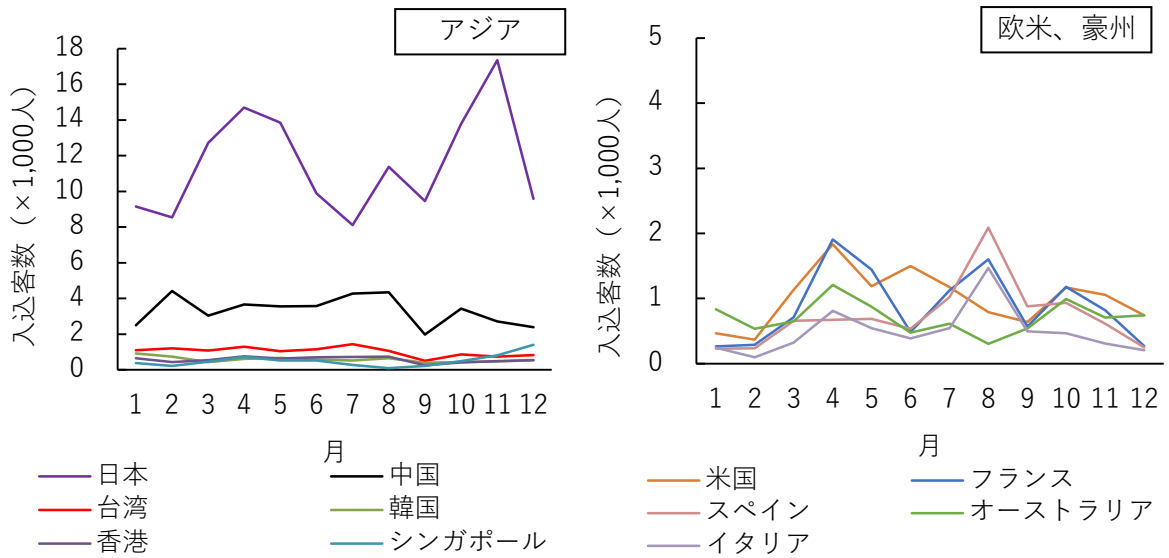


図 7 平成 30 年の観光客案内所利用数上位の国、地域の利用数 (奈良市,2019)

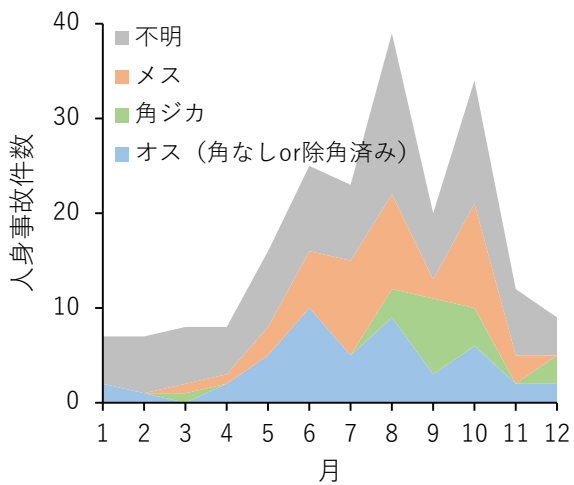


図 8 平成 30 年の雌雄別人身事故件数推移

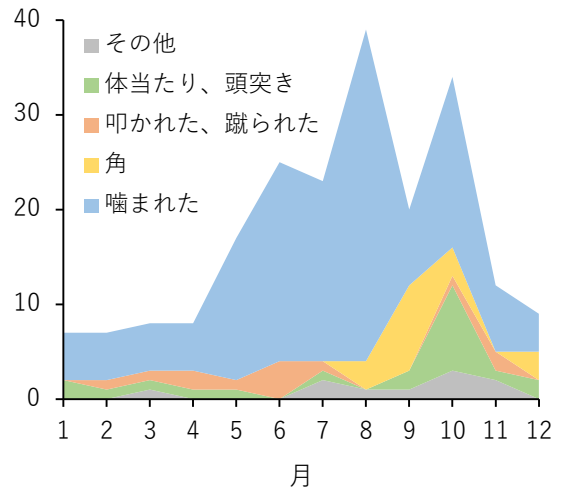


図 9 平成 30 年の事故種類別の人身事故件数推移

## 2) 場所

奈良市へのアクセスは、近鉄が最も多く、次いでバス、JRであった（図 10）。このため、注意喚起・普及啓発は**近鉄からの来訪者に最も力を入れるとともに、バスによる来訪者にも力を入れる必要がある**。また、外国人観光客は JR パスを利用していることが多いため、**JR 奈良駅**においても実施を検討する。

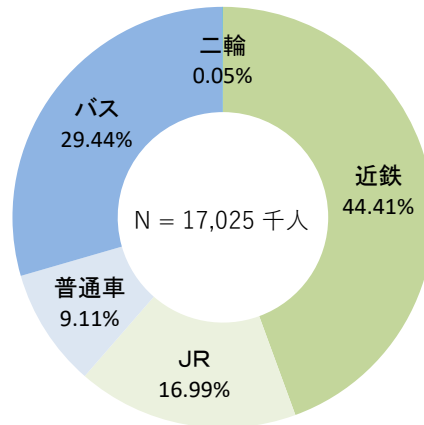


図 10 平成 30 年の奈良市における利用交通機関別入込客数（奈良市,2019）



#### 4) 観光客が接する機会が多い媒体の選択

3) で作成した普及啓発情報を、SNS、口コミサイト、リーフレット、チラシ、デジタルサイネージ、TV、新聞等の媒体を用いて広める。

媒体については、今年度実施するアンケート調査結果に基づき、効果的なものを選択する。

#### 5) 普及啓発情報に接する機会の増加

4) で選択した媒体において、観光客が情報に接する機会を増加させるため、媒体への投稿・掲示頻度を増加させる。

また、奈良公園でのパトロール時や、イベント等に合わせて、普及啓発情報を配布する。これらの情報は、多言語化し、配布する。

#### 参考文献

奈良市 (2019) 平成 30 年奈良市観光入込客数調査報告

渡邊伸一 (2014) 観光地における動物との接触事故への対応—「奈良のシカ」の事例—；奈良教育大学紀要, 63, No.1, 99-113pp.

# 奈良のシカによる人身事故防止のためのアンケート

このアンケートは、奈良のシカによる人身事故防止に役立てるためのアンケートです。

奈良公園室

あなたのことについてお聞きします。

性別	1. 男性	2. 女性	都道府県	
年齢	1. 10～19 歳	2. 20～29 歳	3. 30～39 歳	4. 40～49 歳
	5. 50～59 歳	6. 60～69 歳	7. 70～79 歳	8. 80 歳以上

奈良公園のシカについてお聞きします。

(1) 奈良公園のシカは、野生動物だと思いませんか。あてはまるもの <b>1つ</b> に○を付けてください。
1. 野生だと思う(理由: ) 2. 野生ではないと思う(理由: ) 3. その他( )
(2) 奈良公園のシカは、自然状態で何を食べていると思いませんか。あてはまるもの <b>1つ</b> に○を付けてください。※鹿せんべいを除く
1. 植物      2. 肉      3. 植物・肉の両方(雑食)      4. その他( )
(3) 奈良公園のシカに餌として与えたことのあるもの <b>全て</b> に○を付けてください。
1. 鹿せんべい      2. 野菜類      3. パン      4. お菓子      5. 弁当のおかず 6. 公園内の植物、ドングリ等の木の实      7. 紙類      8. ビニール袋 9. ものを与えたことはない      10. その他( )
(4) あなた、あるいはお連れ様が、シカにケガをさせられた経験がありますか。
1. ある → (5) へ      2. ない → (7) へ
(5) (4)で「ある」と回答された方に質問です。どのような事故でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
1. かまれた      2. 蹴られた・叩かれた      3. 突進された      4. 角で突かれた 5. その他( )
(6) (4)で「ある」と回答された方に質問です。どのような状況で事故にありましたか。あてはまるもの <b>全て</b> に○をつけてください。
1. 鹿せんべいを買おうとした時、与えている最中、与え終えた直後 2. 歩いていた時(不意に) 3. シカに近づいた時 4. シカに触れようとした時、触れている時 5. シカの喧嘩や驚いて逃げるシカに巻き込まれた 6. 原因不明 7. その他( )





(13) (11) で「知っている」と回答された方に質問です。シカによる人身事故を防ぐための注意点は、どこで知りましたか。あてはまるもの <b>全て</b> に○を付けてください。	
1. 観光ガイドブック	
2. Trip Adviser 等の口コミサイト（よく利用するサイト）	)
3. SNS（よく利用するサイト）	)
4. 観光情報サイト（個人ブログ含む）	
5. 宿泊施設の観光パンフレット、チラシ	
6. 駅の観光パンフレット、チラシ	
7. 奈良公園内の注意看板	
8. 奈良公園で人（鹿せんべい販売店、巡視の人等）から教わった	
9. 知人・家族などから教わった	
10. その他（	)
(14) 奈良公園内に設置されている、シカとのふれあいについての注意看板を見ましたか。	
1. 見た → (15) へ	2. 見ていない → (16) へ
(15) (14) で「見た」と回答された方に質問です。看板の内容とふれあい方について、あてはまるもの <b>1つ</b> に○を付けてください。	
1. 内容を覚えており、ふれあい方を注意している	
2. 内容を覚えておらず、ふれあい方を注意していない	
(16) 奈良公園ではシカに鹿せんべい以外の食物を与えてはいけないことを知っていますか。	
1. 知っている	2. 知らない

**奈良公園への観光についてお聞きします。**

(17) 奈良公園への来訪は何回目ですか。あてはまるもの <b>1つ</b> に○をつけてください。	
1. 初めて	2. 2回目 3. 3回目以上
(18) 奈良公園への来訪目的は何ですか。最も重視したものの <b>1つ</b> に○をつけてください。	
1. シカ	2. 社寺仏閣 3. 自然観察 4. その他（
(19) 奈良公園へはどのようにして来ましたか。あてはまるもの <b>1つ</b> に○を付けてください。	
1. 近鉄電車	2. JR 3. ツアー観光バス 4. 高速バス・空港からのシャトルバス
5. タクシー	6. 車 7. その他（
(20) 奈良公園へ来訪する前日の宿泊場所と利用施設を教えてください。	
<b>宿泊施設の所在地：</b> 奈良市内 / 奈良市外	
1. ホテル・旅館	2. ユースホステル・ゲストハウス 3. 民泊 4. 親族・知人宅
5. 自宅	6. 前日は宿泊していない 7. その他（

